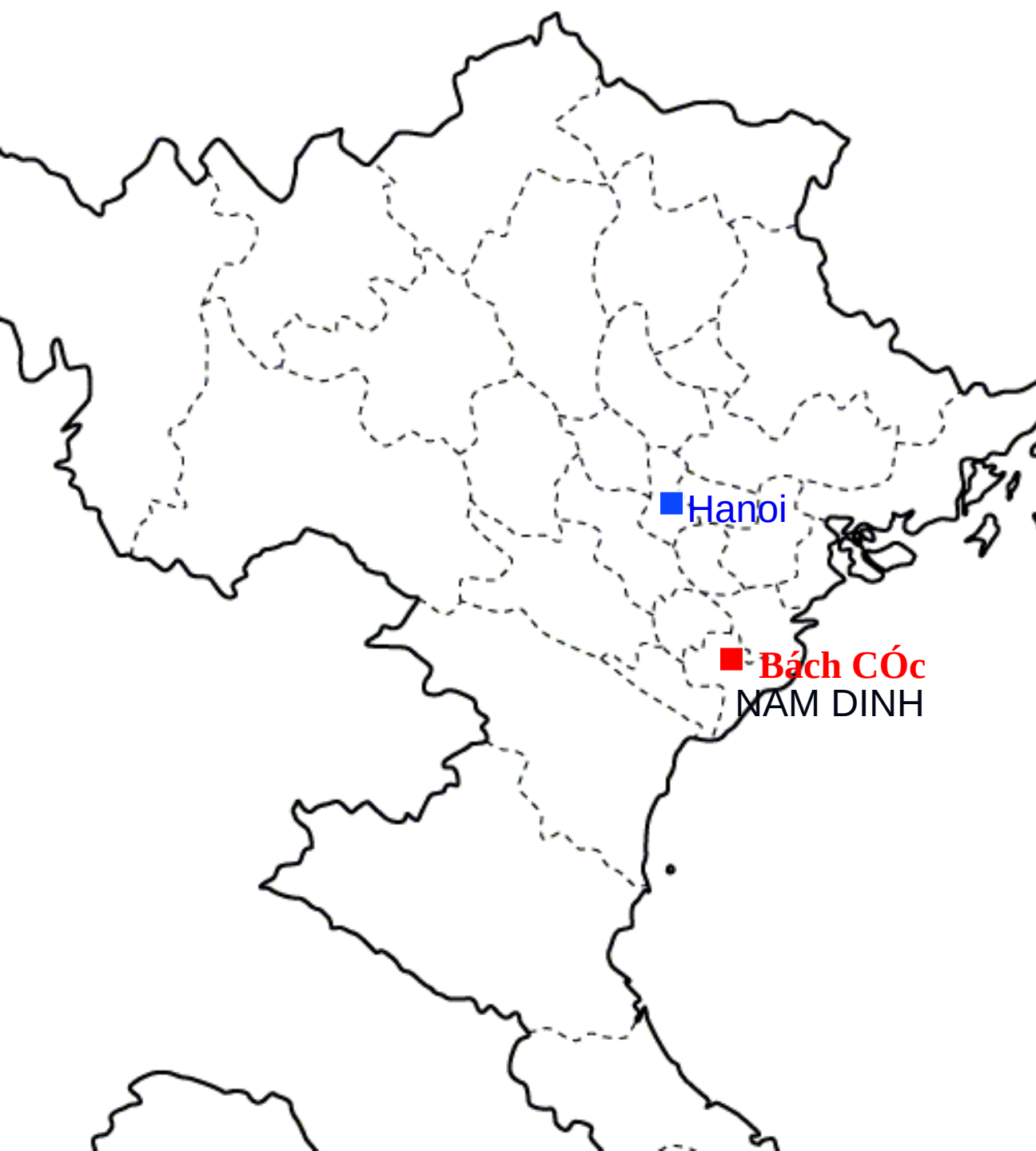


経験としての現代史 飢餓・焦土・彷徨そして**革命**

2010年1月18日 桜井由躬雄

※:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。





**Làng
(village)
Bạch CỐC
tỉnh Nam
ninh, huyện
Võ Bản,
xã Thành
Lũy, HTX
Cốc Thành,
5 xóm**

バックコック研究組織

資金 科学研究補助金、JICA研究調査費ほか

日本側組織代表機関

1993-1995 大阪大学

1996-1998 慶應義塾大学

1999- 2001 東京大学

2002-2004 名古屋商科大学

2003-2005 神田外国語大学

2005-2007 広島大学



ほかに京都大学農学部熱帯農学科チーム、
早稲田大学教育学部地理学科チームなど

ベトナム側協力組織

ベトナム国家大学(ハノイ)、ベトナム農業科学技術研究所、
計画投資省、ナムディン省人民委員会、タインロイ社人民委員会、コックタ
イン合作社

調査参加者

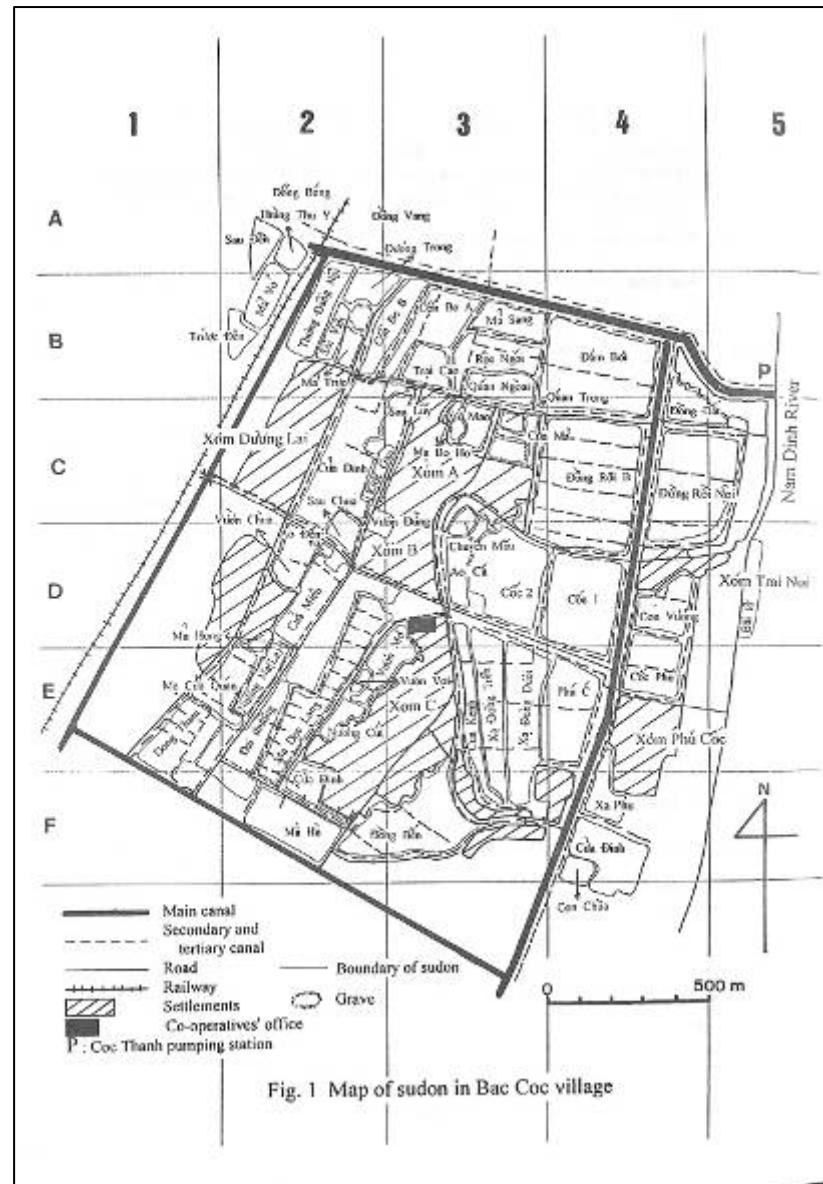
1994～2010 17次調査 日本 20大学のべ300名
実動員 100名



	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
General Survey												
Land survey												
Household economy												
Village Document												
Religious Organization												
HTX, DSX												
Agronomy												
Market Activity												
	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002		
Archaeology												
Ecology												
Personal History												
Social Organization												
Agricultural Credit												
Women's activiy												
Architecuture												
Rural Industrialization												
labor migration												

Cóc Thành 合作社

≡



提供：
南山大学 野口博史氏

一家あたり平均経営面積 2000年調査 ソムB

雨季水田

1793 m²

乾季水田(冬春稻)

1654 m²

畑地、菜園

240 m²

屋敷地

228 m²



個人史調査

6ソム、述べ200人の老人と面接調査、うち100人が資料的に有効

43% 男子老人Xóm A,
100% 男子老人Xóm B
66% 男子老人Xóm C
54% 全ての男子老人



調査のねらい



- 土着社会主義の成立を求めて
- 土着社会主義 domestic socialism/ 国家集産主義
state collectivism
- 食べるための経済/ 稼ぐための経済
- 生存のためにもっとも効率的な財の分配

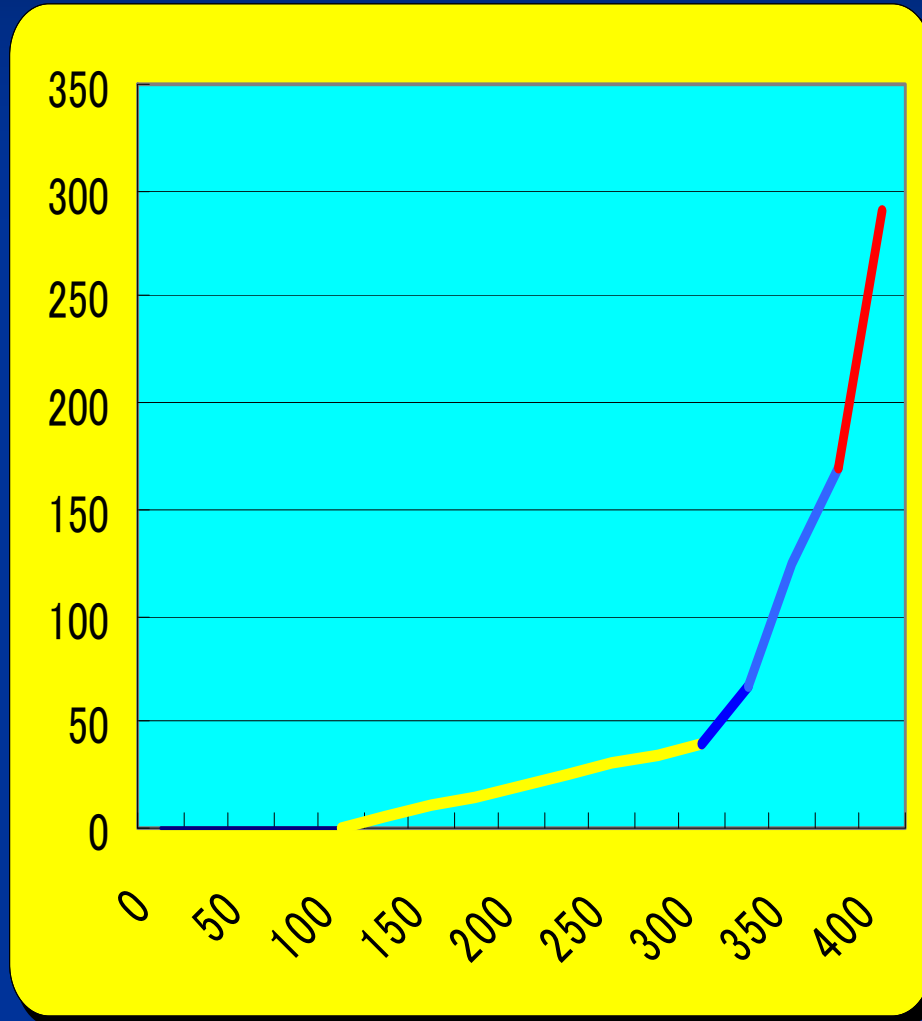


個人史の時代区分

- 昔
- 大飢饉(1945)
- フランスの侵攻(1947)
- 平和到来と土地改革(1954ー1957)
- 初期合作社(1959)
- 高級合作社と抗米戦争1965)
- 100号指示(1981)
- 土地分与(1993)
- 新しい合作社(1996)
- 工業区の建設(2003)



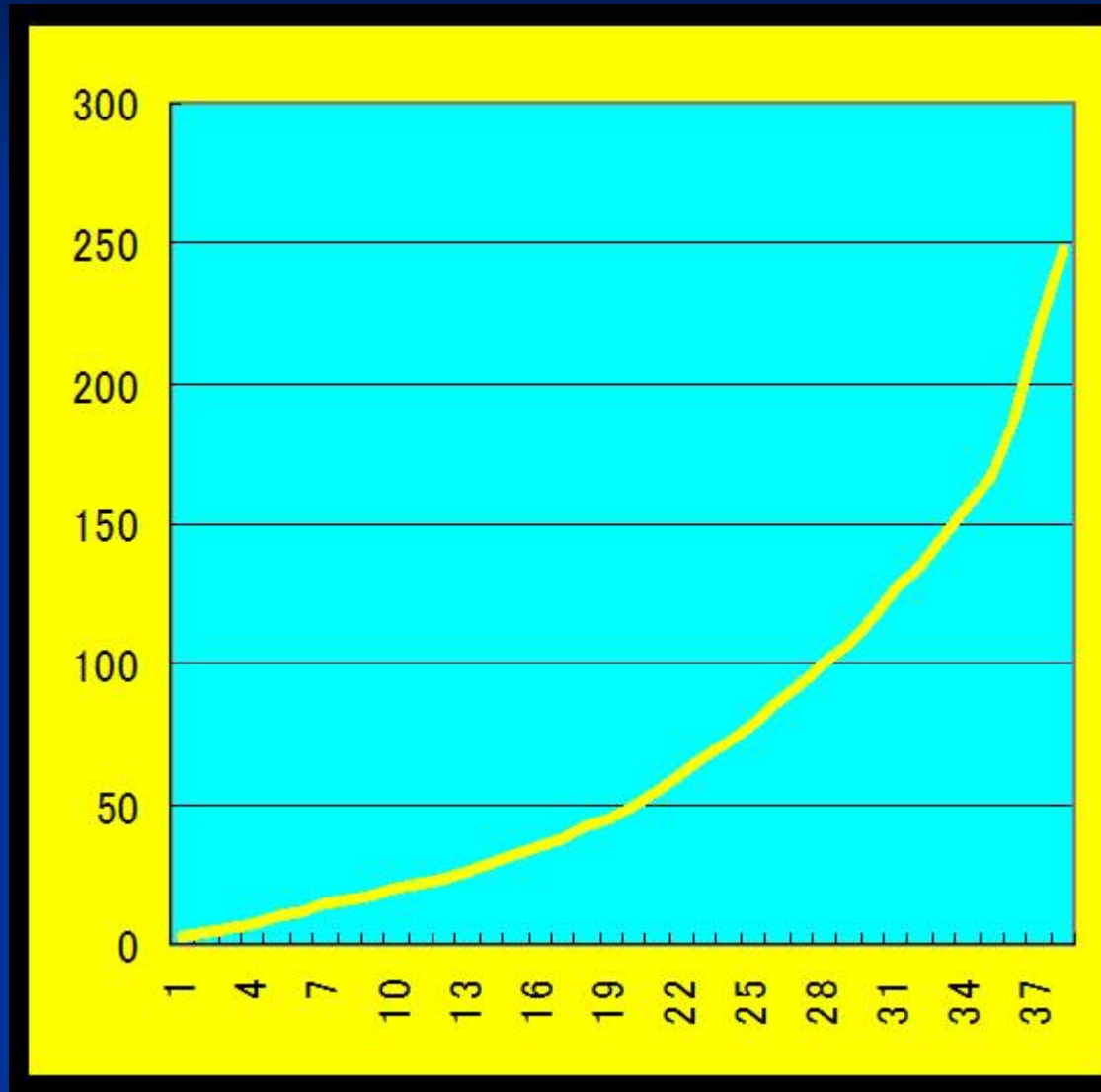
土地所有の非均質性 1930-40年代



- 地主
- 上位中層
- 下位中層
- 土地なし農民

下位中層の土地所有の均質性

37人の私田をもたない
官田所有者の分析





米の生産性

- ①20-30 kg per 1 sào (556 - 833 kg per ha)
- ②30-40kg (833kg - 1111kg)
- ③30-45 kg (833kg - 1250 kg)
- ④40kg (1111kg)
- ⑤50 kg (1388kg)
- ⑥83kg (2300kg)
- 現在の三分の一以下の低生産性

昔

- 食糧の絶対的窮乏
- 村落社会からの土地なし農民の疎外
- 中層農民における土地所有の均質性
- タイドー教育を通じた村外労働の発展

1945年大飢饉

歷史的經驗

To be or not to be

ナンドイー大飢饉

- 1944年秋作の不作により、1945年2月から4月まで、バックコックは絶糧状態になる
- 南部との交通途絶、紅河デルタ全域の不作、ジュート栽培などのために、米価が高騰し、貧民は買えない
- 2月末から餓死者が続出する。犠牲者はソム A, B, Van, ApPhuで総計137人、人口比16%と推定(古田、1998)

- 45年の飢饉ではこのあたり中、死体でいっぱいになった。街路の両側にも死体がいっぱいだったが、誰も埋めるものがいなかった(29氏、女性、ソムB, 1932年生)。
- 父は水田をもたないガラス職人であった。1945年旧暦3月、ムラに戻ってきて死んだ。長男、妹、弟の三兄弟が、その月に餓死した。(48氏、男性、ソムC, 1934年生)
- 1945年の飢饉前までは7-8人の家族がいたが、飢饉では兄、妹をのぞくすべてが餓死した。1945年の旧暦三月に父が、同八月に母が餓死した。そのほか男子二人、女子二人が餓死した。死者があまりに多く、命日は祀っていない(53氏、男性、ソムC, 1929年)。
- ソム(チャイノイ)からたくさんの人がタイビンなどあちこちに逃げた。死んだ人も多かった、300人くらいは死んだのではなかろうか。一人の子供しか残らない家も多かった(82氏、男性、チャイノイ、1927年生)。

だれが生き残るか？

- だれが生き残るか？

官田所有者は生き残る

情報者	生年	部落	公田	私田	通学年	家族数	家族内死者	性別
80	1920	AP		0	0	6	0	m
82	1927	TN		0	0	1	0	m
17	1936	B		0	0		0	m
21	1921	B		0	0	0	0	m
56	1927	TN		1	5 long		0	m
59	1920	PC		1	0	2	0	m
39	1929	A		2	5-6	3	0	m
44	1933	A		2	30	5	10	0 m
43	1938	A		2	5	8	0	m
55	1917	TN		2	10 long		0	m
60	1914	PC		2	0	6	0	m
75	1935	C		2	0	0.5	0	m
80	1922	AP		2	0	3	0	m
41	1927	B		2		1	0	m
73	1933	AP		2	0	3	9	0 m
52	1939	PC		2	2	4	0	m
42	1929	A		2	2	3	0	m
74	1924	PC		2	0	11	0	m
76	1920	AP		2	0 long		0	m
85	1926	TN		2	0	0	0	m
19	1929	TN		3	50	0	10	0 f
45	1935	TN		3	0	3	0	m
58	1930	PC		3	0	4	0	m

非農業労働者も生き残る

n	in	by	bp	land		NAJ	schooling	family	death	DR	
				cd	td		year	number	number	%	
16	80	1920	AP	0	0	cake maker	6		0	0	
22	82	1927	TN	0	0	fisher	1		0	0	
7	17	1936	B	0	0	metal worker	0		0	0	
6	21	1921	B	0	0	textile worker	0		0	0	
14	59	1920	PC	1	0	rice trader	2		0	0	
19	75	1935	C	2	0	baffalo keeper	0.5		0	0	
21	80	1922	AP	2	0	buffalo keeper	3		0	0	
4	41	1927	B	2		cabinetmaker	1		0	0	
17	73	1933	AP	2	0	cake maker	3	9	0	0	
10	52	1939	PC	2	2	rice trader	4		0	0	
5	42	1929	A	2	2	tailor	3		0	0	
26	79	1933	AP	0	0	textile worker	0	6	1	16	
24	18	1920	B	2	0	glassmaker	0	7	1	14	
28	84	1920	TN	0	0	fisher	0	5	2	40	
30	48	1934	B	0	0	galssmaker	0	6	3	50	
35	37	1940	B	0	0	vegetable pedler	0	7	5	71	

非農業部門に従事しない土地なし農民は死ぬ

n	in	by	bp	land cd	NAJ td	schooling year	family number	death number	DR %	sex
34	38	1930	A					10	1	10 m
24	18	1920	B	2	0 glassmaker		0	7	1	14 f
26	79	1933	AP	0	0 textile worker		0	6	1	16 m
25	77	1935	C	1	0		0	6	1	16 m
27	13	1933	B	0	0	0	0	5	2	40 m
28	84	1920	TN	0	0 fisher		0	5	2	40 f
29	16	1925	C	0	0	0	0	6	3	50 m
30	48	1934	B	0	0 galssmaker		0	6	3	50 m
36	78	1940	c	3		?		6	3	50 m
31	15	1935	B	0	0	0	0	7	4	57 m
32	53	1929	CAP	0	0	0	0	7	4	57 m
35	37	1940	B	0	0 vegetable pedler		0	7	5	71 f
33	57	1940	TN	0	0	0			2 ?	m

だれが生き残るか？

- (1) 零細でも土地をもっていたもの
- (2) 土地をもった上で、非農業部門に参加したもの

結論

- どんな小さい土地でもなければ死ぬ。

八月革命

- 帰郷
- 1945年3月、飢饉の最中に、ナムディン市のフランス軍が日本に降伏した。フランス植民地の秩序が崩壊した。ナムディンの商店はみな店を閉じ、多くの人々がきたるべき戦火をさけて故郷に疎開した。
- ナムディン繊維工場は、最盛期で13000人の労働者を雇用していたが、1945年8月段階では、原料不足と米軍の爆撃のために2000人に縮小していた

歴史的事件と庶民

- たしかに45年3月にナムディンにいた人は、日本軍とフランス軍の戦いを見ている(41氏)。
- 同年、ハノイで働いていた人は、9月2日の独立式典に参加し、そのまま人民軍に参加した(40氏、男性、カムファー、1927年生)。
- 同時期にムラにいた人々には八月革命の記憶はほとんどない。
- 29氏(女性、ソムB, 1932年生)は、革命があったことは知っているが、家庭状況が参加を許さなかったとしている。

庶民にとっての八月革命

- 新政権の樹立
- 公田の分配 60マウ→300家族
- 平民学務の開始
- しかし、ほとんどの人々に記憶されていない

「昔」のムラが消えた

フランス軍の侵攻

The 2nd month of 1947

丸焼け(チャイヘット)

- 1947年旧暦二月、10号線の安寧秩序のために、フランス戦車部隊が10号線沿線のベトミン村落に侵攻、ゲリラの根拠地とされるムラムラを焼き払った。(ナムディン作戦)
- バックコック、はゲリラの隠れ場があり、以後3度にわたって掃討を受ける。総計300戸、75%の民家が焼失する。
- 村民はベトミンの焦土作戦にしたがって大撤退し、大混乱がバックコックを襲った。

残った人々

- 抵抗のために残留した下位中層、一部の土地なし青年たち→戦後の政治指導者
- 自分の土地を守る上位中層の人々
- 放棄田を耕作する土地なし青年たち→戦後、村落政治から疎外される
- まったく連絡をうけなかった女性や子供達だけの世帯

遠距離に逃げた人々

おもに2集団

ナムディン沿岸部、ハイハウのキリスト教地域

タインホア解放区

多くの人々はすでに村外就労の経験者一外を知っている

資本、技術をもって定着する傾向

1954年以後、村内政治の指導者となる

さまよう人々

- 家族を離れた女性達の多くは、ただ放浪を繰り返す。彼女たちは非識字で村外経験をもたない。

16氏(女性)は1925年にソムBの土地なし農民の家に生まれた。小さいときから村内で、地主の家で子守や手伝いを転々と繰り返した。1946年に同じ、土地なし農民の青年と結婚した。しかし、家はもてず、同族の祠堂の軒を借りて新居とした。そこにフランスの侵攻が始まった。夫と放浪の旅に出る。エビカニを捕らえて生活の糧とした。どこを放浪していたのか地名も記憶しない。1949年ごろ、夫はフランス軍に捕らえられ、行方はわからない。別れてまもなく、長男が出生した。帰郷したのは1954年である。夫の消息は知れなかった。のちに夫は南部に連れてゆかれ、ブンタウの女と結婚して、別に家庭をもっていることを知った。

土地改革

土着社会主義の完成

新村落政権の樹立

コクティン社主席はブイフイゴ。ソムAの上位中層の出身、党ソムA支部の書記、旧タンコック社の党支部書記。

ソムAの41氏はこのとき、27歳。バックコック学校に一年在学し、その後、ナムディン、ハノイでの就労経験をもつ。八月革命直後には、地政係としてバックコックの官田の分配を指揮していた。1947年以降は、抗戦グループに属し、ながらく抗戦政府の公安部門を与っていた。

- アプフーの72氏は、同じく34歳、以前は菓子職人であったが、新政権のもとで学校建設部門を与った。
- アプフーの73氏は、わずか21歳である。以前はタインホアで菓子の行商をしていた。かれがバックコックの成人クラスの先生と同時に社の公安部門を与った。
- チャイノイの45氏は19歳にすぎない。かれは社の青年組織の書記になり、地主や富裕者から、新政権への献金を巻き上げる仕事をしていた。
- ブフイゴの下に村長(または村主任)が選ばれた。

- バックコックの村長はソムAのブイフイティ。タ
ンタイン自衛中隊の中隊長。彼の下で当時2
5歳の39氏がソムAのソム長。39氏はナム
ディンのセントトーマス学校三年修了、抗戦
中はタンタインの救国青年分団長。
- フーコックムラでは、当時、28歳の62氏が
村長。

- 62氏は1926年にフーコックで生まれた。6人兄弟の長男だった。私塾で漢文やクオックゲーを三年ほど習った。16, 7歳のときに、ハノイに出、ハンティエック(錫通り)の錫職人の家で修業した。八月革命のときはハノイにおり、バディン広場の独立宣言をきいた。人民軍に志願し、転戦を繰り返したが、1950年、フートーの戦いで負傷し、タインホアに送られ、負傷者安静所にいた。54年にフーコックに戻った。帰郷後、すぐフーコックの村長に選任された。

内部の土地改革

- 官田の分配 (1945)
- 大量の土地放棄 (1947)
- 無許可で放棄田を耕作する (1947-1954)
- 地主の投げ売り (1955)

そとからの土地改革

土地改革は、最初の国家による社会干渉

Doi (土地改革隊)、1956年末、バックコックに到着

ドイと土地なし青年の結合

新政権幹部との対立→Bui Huy Ngo 解任事件

国民党事件

1957年の修正

中層指導者の復活
土地所有均質化の完成

土地改革による所有変化

■ Bach Coc+Phu Coc

	pre-LR		post-LR
■ class	CD+TD	TD	
■ 中農	3767.8	3278.8	3583.4
■ 貧農	692.0	203.0	1993.8
■ 雇農	36.0		2016.0

変化しない人が大部分

■ IN	Pre-Reform		Post-Reform		xom		
■	CD	TD		class		career	
■ 21	6		6	?	B		
■ 56	2	5	6	trung nong duoi	TN	thu ky cai cach	RD
■ 44		30	30	trung nong	A		
■ 80	2	0	2	phu nong	CA	Work for French Army	
■ 20	2	?	3	?	B		
■ 60	3		3	ban nong	PC		
■ 78		3	3	?	C	lao dong, 1.5	
■ 54		4	4	ban nong	C	Tailor	
■ 53		5	5	ban nong	C	du kich, anh la can bo	
■ 19	0	6	6	trung nong duoi	B		
■ 59	1	6	6	trung nong	PC	xa cong an	
■ 43	2	5	7	trung nong	A		
■ 45		10	10	?	B	pho bi thu thanh nien xa	
■ 55	2	10	12	trung nong duoi	TN		
■ 14	0	20	20	trung nong	B		
■ 67	?	?	5,6	ban nong	PC		

貧農層の変化

	CD	TD	Post LR
IN			
8	0	1.33	16
68	2.66		8.5
15	0	0	6
62	4.5		5.6
67	4.5		5.6
27	2		5
84		2	3
29	0	0	2.5
81	0	0	?
35	2	0	?
57	?	?	7.5
71			7
53		5	5
54		4	4
60	3		3

雇農層の変化

■ IN CD	TD Post LR
■ 48	1 3
■ 24 0	0 3
■ 28 0	0 4
■ 25 0	0 4
■ 33 0	0 4
■ 37 0	0 6
■ 85	7
■ 64 0	0 7
■ 77 0	0 8
■ 79 0	0 10

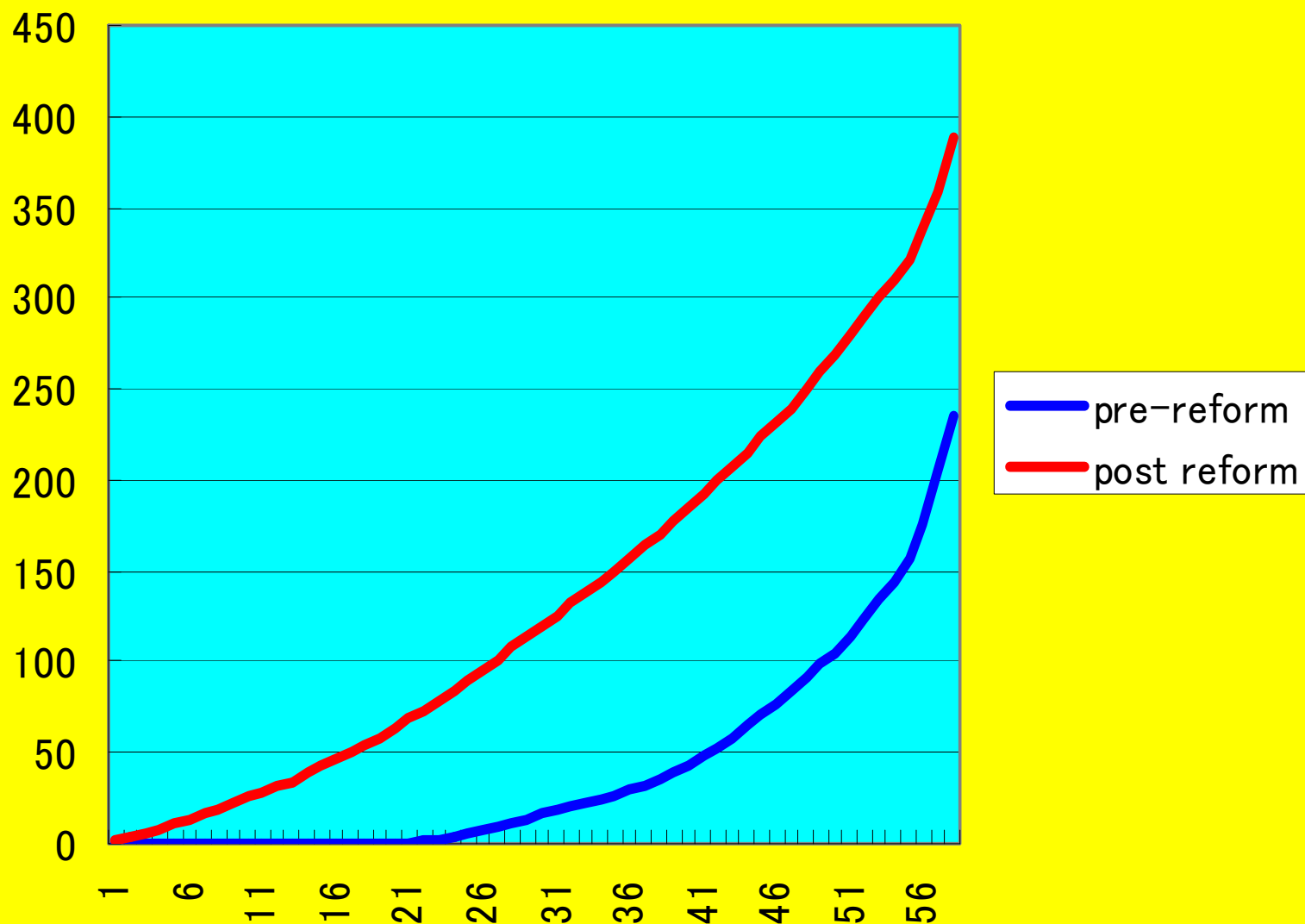
政治的变化

- 1)地主と旧ムラの秩序を担っていた上位中層の人々が姿を消し、
- 2) 抗仏運動を担っていた一部の上位中層と、多くの下位中層の人々が村落政治の中核に進出していたが、
- 3) ドイの指導により、下層の人々が②の批判を通じて政治に進出する。
- 4)土地改革の修正後、再び下位中層グループのヘゲモニーが確立する。
- 無識字層へのあからさまな差別が残る

土地所有構造の変化

- 1)地主と上位中層の大部分は排除され、
- 2)抗仏運動にアクチヴに参加した下位中層、下層農民への優遇がなされ、上位中層にかわった。
- 3) 抗戦期に自主的になされた土地分配を基礎とし、
- 4)官田受給規模はそのまま維持され、
- 5)下位中層、下層農民たちは、1家族につき、4ー7サオの土地を獲得して下位中層に参加した。

全ての村民の下位中層化

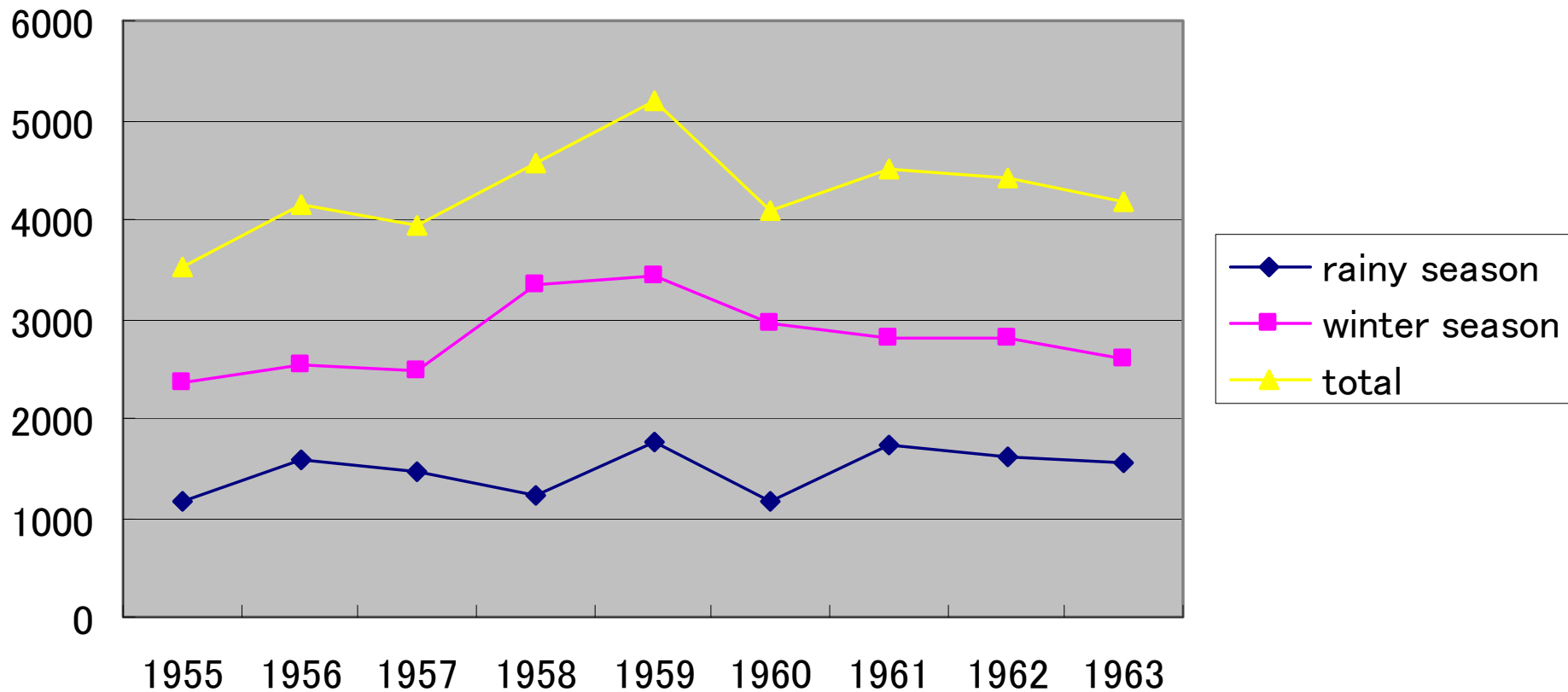


土着社会主義の制度的確立

多くの農民は土地改革を
官田の私田化ととらえている。

資本、労働力の集中配分管理による 食糧増産

ナムディン省における合作社運動宣伝文書



合作社の時代 1960～1981

土地分与の時代 1981～2003

工業区の時代

土着社会主義と市場経済との融合

Sang di toi ve モデル

